CA SystemEDGE

リリース ノート

リリース 5.6

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- CA eHealth®
- CA Embedded Entitlements Manager（CA EEM）
- CA IT Asset Manager
- CA IT Client Manager
- CA NSM（CA Network and Systems Management）
- CA Patch Manager
- CA Server Automation
- CA Service Desk Manager（CA SDM）
- CA Spectrum ®
- CA SystemEDGE
- CA Virtual Assurance for Infrastructure Managers
- CA Software Delivery

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト（http://www.ca.com/jp/support/）をご覧ください。

目次

第 1 章: システム情報

この章ではプラットフォームのサポートについて説明します。これには、SystemEDGE エージェントおよび Storage Resource Manager AIM を実行するために使用される、ハードウェアおよびソフトウェアの要件を含みます。

SystemEDGE エージェントと CA Virtual Assurance を一緒に使用する場合のプラットフォームのサポートおよびハードウェア要件の詳細については、「CA Virtual Assurance リリース ノート」を参照してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

SystemEDGE のオペレーティング システム サポート

SystemEDGE Version 5.6.0 を実行するコンピュータでは、以下のいずれかのオペレーティング システムが必要です。

Windows

- Windows Server 2003 SP2 Standard、Enterprise、Data Center、および Small Business Server Edition（32 ビット、x86）
- Windows Server 2003 R2 SP2 Standard、Enterprise、および Data Center Edition（32 ビット、x86）
- Windows Server 2003 R2 SP2 Standard、Enterprise、および Data Center Edition（64 ビット、x64）
- Windows Server 2003 SP2 Edition（64 ビット、x64）
- Windows Server 2003 SP2 64-bit Itanium Edition（64 ビット）
- Windows Server 2008 R2 with SP1
- Windows Server 2008 Standard、Enterprise、および Data Center Edition（32 ビット、x86）
- Windows Server 2008 Standard、Enterprise、および Data Center Edition（64 ビット、x64）

- Windows Server 2008 R2 Standard、Enterprise、および Data Center Edition（64 ビット、x64）
- Windows Server 2008 64-bit Itanium Edition（64 ビット）
- Windows XP Professional SP3（32 ビット、x86）
- Windows Vista SP1 Business、Enterprise、および Ultimate Edition（32 ビット、x86）
- Windows Vista SP1 Business、Enterprise、および Ultimate Edition（64 ビット、x64）
- Windows 7 Professional Edition（32 ビット、x86）
- Windows 7 Professional Edition（64 ビット、x64）

HP

- HP-UX 11.11 PA-RISC（64 ビット）
- HP-UX 11.23 PA-RISC（64 ビット）
- HP-UX 11.23 ia64（64 ビット）
- HP-UX 11.31 PA-RISC（64 ビット）
- HP-UX 11.31 ia64（64 ビット）

IBM AIX

- IBM AIX 5L Version 5.3（32 ビット、64 ビット）
- IBM AIX Version 6.1（64 ビット）
- IBM AIX Version 7.1（64 ビット）

Linux

- Red Hat Linux Web Server、Advanced Server、および Enterprise Server 4.0（32 ビット、x86）
- Red Hat Linux Web Server、Advanced Server、および Enterprise Server 4.0（64 ビット、x64）
- Red Hat Linux 64-bit Itanium Web Server、Advanced Server、および Enterprise Server 4.0（64 ビット）
- Red Hat Linux Web Server、Advanced Server、および Enterprise Server 5.0（32 ビット、x86）

- Red Hat Linux Web Server、Advanced Server、および Enterprise Server 5.0（64 ビット、x64）
- Red Hat Linux 64-bit Itanium Web Server、Advanced Server、および Enterprise Server 5.0（64 ビット）
- Red Hat Enterprise Linux 6.0（32 ビット、x86）
- Red Hat Enterprise Linux 6.0（64 ビット、x64）
- SUSE Linux Enterprise Server 9.0（32 ビット、x86）
- SUSE Linux Enterprise Server 9.0（64 ビット、x64）
- SUSE Linux Enterprise Server 9.0（64 ビット、ia_64）
- SUSE Linux Enterprise Server 10.0（32 ビット、x86）
- SUSE Linux Enterprise Server 10.0（64 ビット、x64）
- SUSE Linux Enterprise Server 10.0（64 ビット、ia_64）
- SUSE Linux Enterprise Server 11（32 ビット、x86）
- SUSE Linux Enterprise Server 11（64 ビット、x64）
- Debian Linux Version 4.0（Etch）（32 ビット、x86）
- Debian Linux Version 4.0（Etch）（64 ビット、x64）- レガシー モードのみ
- Debian Linux Version 4.0（Etch）（64 ビット、ia_64）- レガシー モードのみ
- Debian Linux Version 5.0（Lenny）（32 ビット、x86）
- Debian Linux Version 5.0（Lenny）（64 ビット、x64）- レガシー モードのみ
- Debian Linux Version 5.0（Lenny）（64 ビット、ia_64）- レガシー モードのみ

zLinux

- SUSE Linux Enterprise Server 10（zSeries）- レガシー モードのみ
- SUSE Linux Enterprise Server 11（zSeries）- レガシー モードのみ
- Red Hat Enterprise Server 5.0（zSeries）- レガシー モードのみ

Solaris

SystemEDGE では、Solaris 10 オペレーティング システムのすべての Solaris ゾーンの設定をサポートします。

- Solaris UltraSPARC 8（64 ビット）
- Solaris UltraSPARC 9（64 ビット）
- Solaris UltraSPARC 10（64 ビット）
- Solaris 8（32 ビット、x86）
- Solaris 9（32 ビット、x86）
- Solaris 10（32 ビット、x86）
- Solaris 10（64 ビット、x64）

注: Solaris 8 SPARC および Intel では、パッチ 109326（SPARC）および 109327（x86）を適用しないと SystemEDGE を起動できません。Solaris 8 SPARC および Intel には、パッチ 117000（SPARC）および 117001（x86）を適用することをお勧めします。これにより、CPU 統計の誤りに関する問題が修正されます。

展開や設定などの CA Virtual Assurance に固有の機能は、すべてのプラットフォームでサポートされていない場合があります。

ハードウェア要件

SystemEDGE および AIM のハードウェア要件は以下のとおりです。

最小要件

CPU：OS ベンダーと同じ

RAM：OS ベンダーと同じ

空きディスク領域：50 MB（管理対象ノード、SystemEDGE のみ*）
空きディスク領域：250 MB （CA Virtual Assurance AIM をすべてインストールした AIM サーバ）

ネットワーク インターフェース コントローラ（NIC）：100 Mbps

推奨

CPU：OS ベンダーと同じ

RAM：OS ベンダーと同じ

空きディスク領域：150 MB 以上（管理対象ノード、SystemEDGE のみ**）
空きディスク領域：500 MB （CA Virtual Assurance AIM をすべてインストールした AIM サーバ）

ネットワーク インターフェース コントローラ（NIC）：100 Mbps 以上

（*）UNIX と Windows の領域の要件は少し異なります。Windows をインストールする場合、スペース要件は MSI インストーラを使用してインストールする場合を示します。

（**）診断トレースが有効である場合、ランタイム ファイルの領域の要件は大きくなります。デフォルトでは、診断トレースのサイズの上限は 10 MB です。

ソフトウェア要件

特定のプラットフォームでは以下のソフトウェアが必要です。

- IA-32 Execution Layer では、Linux IA64 システムに SystemEDGE をインストールする必要があります。詳細については、「Linux IA64 システムへのインストール (P. 14)」を参照してください。
- edgetrapmon ユーティリティは、Linux、UNIX および Windows の xtrapmon に代わるもので、追加のライブラリは不要です。

  注: このリリースでは、edgetrapmon はすべてのプラットフォームで利用可能です。以前利用可能であった xtrapmon ユーティリティは、今後は利用できません。

第 2 章: 一般的な注意事項

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

Microsoft データ センターの認定

SystemEDGE エージェントは、UNIX、Linux、または Windows システムで実行されてもシステム カーネルには影響しません。SystemEDGE にはデータ センターの認定は必要ありません。

Linux IA64 システムへのインストール

SystemEDGE インストール インフラストラクチャは、x86 アーキテクチャのみで利用可能です。Linux IA64 システムに SystemEDGE をインストールする間に、IA-32 Execution Layer が Linux システムにすでにインストールされているかを確認する必要があります。

次のコマンドを使用すると、そのレイヤが利用可能かを確認できます。

```
/etc/init.d/ia32el
```

Execution Layer が利用できない場合は、Linux システムにそのレイヤをインストールする必要があります。

IA-32 Execution Layer をインストールする方法

1. ia32el rpm をインストールします。
2. ご使用のオペレーティング システムのバージョンに適した glibc i686 RPM をインストールします。インストールするバージョンを確認するには、次のコマンドを実行します。

   ```
   rpm-qa | grep glibc
   ```

   /emul/ia32-linux フォルダが作成されます。
3. レガシーの IA64 C++ ライブラリ(compat-libstdc++-33-3.2.3-61.ia64.rpm)を追加します。

   パッケージの正確なバージョンは、さまざまなオペレーティング システム リリースにより異なります。

ia32el パッケージの詳細については、ベンダーのマニュアルを参照してください。

サポートされているアップグレード

以下の旧バージョンから SystemEDGE 5.6.0 にアップグレードできます。

- SystemEDGE 5.0、5.0.1、5.0.2、5.1.0
- SystemEDGE r4.3 の任意のバージョン
- SystemEDGE r4.2 パッチ レベル 3 以上

r4.3 の AIM はすべてアップグレードされますが、SystemEDGE r4.2 のアップグレードには AIM を含めることができません。

注: アップグレードの実行の詳細については、「SystemEDGE ユーザ ガイド」を参照してください。

CA eHealth Service Availability AIM を、Service Availability 2.1 の任意のバージョンから SRM 3.6.0 にアップグレードできます。

注: SRM AIM のアップグレードの詳細については、「SRM ユーザ ガイド」を参照してください。

第 3 章: 新しい機能および拡張機能

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

SystemEDGE の機能

SystemEDGE は、業界標準の MIB を使用してモニタ対象要素へのアクセスを提供する、SNMP 準拠エージェントです。SystemEDGE は、vCenter Server、Hyper-V、Solaris ゾーン、IBM PowerVM (LPAR) などの特定の環境をモニタするための拡張可能プラグイン (AIM) インターフェースも提供します。SystemEDGE は、ステータスとパフォーマンスのデータを CA Virtual Assurance マネージャに提供します。仮想環境およびサーバを管理するために、SystemEDGE は必須です。

SystemEDGE によって提供される機能のリストを以下に示します。リストに示された機能は、SystemEDGE と他のエージェントの差異を比較および識別するのに役立ちます。

- SNMP-compliant エージェント
- SNMP-based トラップ
- SNMP v1/v2/v3 通信
- コンピュータ名/アドレスによるモニタリングの制限
- CAM ベースの通信 (設定操作用のみ)
- 国際プラットフォーム サポート
- Perl 互換の正規表現

- 複数のマネージャ インスタンスのサポート
- Spectrum IM のサポート
- eHealth のサポート
- CA Unicenter Network and Systems Management のサポート
- サード パーティ マネージャのサポート
- ファイル ベースの設定
- マネージャ UI ベースの設定
- 多層階層オブジェクト モデル
- エージェント ベースのしきい値モニタリング
- 集計モニタ
- Host Resource MIB のサポート
- Windows のパフォーマンス メトリック(部分的にサポート)
- UNIX または Linux の広範囲のモニタリング
- 真の平均パフォーマンス モニタリング
- サービス レスポンス モニタリングのサポート(AIM)
- リモート(エージェントレス)モニタリングのサポート(AIM)
- vCenter Server 管理のサポート(AIM)
- Hyper-V 管理のサポート(AIM)
- Solaris ゾーン管理のサポート(AIM)
- LPAR 管理のサポート(AIM)
- MSCS 管理のサポート(AIM)
- UCS 管理のサポート(AIM)
- Exchange Server および Active Directory の管理のサポート(AIM)

新機能

このリリースの SystemEDGE の新機能および拡張機能を以下に示します。

- AIX 7.1 のサポート
- ETPKI 4.2.2 のサポート

- 追加のパフォーマンス メトリック（CPU、kernelperf、memoryStats、network）、および diskStatsTable と devTable グループへの追加（Windows および Solaris）。
- AIX での対話式インストールのサポート。
- Exchange Server および Active Directory 用 AIM

  クラウドおよび社内運用の両方のインフラストラクチャ上の Exchange Server と Active Directory をモニタできます。この AIM は、Exchange Server 環境と Active Directory 環境の設定、およびキー パフォーマンス インジケータのモニタリングを可能にします。

削除された機能

このリリースの SystemEDGE で削除された機能を以下に示します。

- Tru64 UNIX

第 4 章: MIB オブジェクトのサポート

この章では、サポート対象の各 MIB のオブジェクトのうち、特定のプラットフォームでは SystemEDGE エージェントがサポートしないオブジェクトをリスト表示します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

Windows

このセクションでは、Windows オペレーティング システムではサポートされていない MIB オブジェクトをリスト表示します。

MIB-II オブジェクト

SystemEDGE は、Windows XP および 2003 システムでの MIB-II をサポートしていません。これは、Microsoft のマスタ エージェントがすでに MIB-II をサポートしているためです。

Host Resources MIB オブジェクト

Windows では以下の Host Resources MIB オブジェクトがサポートされていません。

- hrSystemInitialLoadParameters
- hrStorageAllocationFailures
- hrFSRemoteMountPoint
- hrFSLastFullBackupDate
- hrFSLastPartialBackupDate
- hrFSAccess
- hrSWRunEntry.SWRunPath
- hrSWRunEntry.SWRunParameters
- hrSWInstalledID

現在のリリースでは以下の Host Resources MIB オブジェクトは実装されていません。

- hrPrinterTable
- hrFSBootable

以下の Host Resources MIB オブジェクトにはオブジェクト コメントがあります。

hrDeviceID

ハードウェアの製造元が ID を割り当てていません。

hrDeviceErrors

デバイス自体がサポートしている場合はサポートされます。

hrProcessorFrwID

製造元が ID を割り当てていません。

IPv6 MIB オブジェクト

Windows では以下の IPv6 MIB オブジェクト(RFC 4293)がサポートされていません。

- ipSystemStatsTable
- ipIfStatsTable
- ipAddressPrefixTable
- ipAddressTable
- ipNetToPhysicalTable
- ipDefaultRouterTable
- ipNetTo

システム管理 MIB オブジェクト

Windows 2003(x86_64、ia_64)では以下のシステム管理 MIB オブジェクトがサポートされていません。

- kernelConfig.romVersion
- ntSystem.ntIoPageLockLimit
- ntSystem.ntCmdlineOptions
- ntSystem.ntDosMemSize
- ntSystem.ntWowCmdline
- ntSystem.ntWowSize
- ntSystem.ntSysBiosVersion

Windows 2003 (x86_64) では、システム管理 MIB オブジェクト ntSystem.ntSysBiosDate がサポートされていません。

すべての Windows オペレーティング システムで、以下のシステム管理 MIB オブジェクトがサポートされていません。

- system.hostid
- devTable.devTfiles
- devTable.devFfiles
- devTable.devMaxNameLen
- devTable.devFstr
- devTable.devInodeCapacity
- kernelConfig.serialNumber
- kernelConfig.maxInode
- kernelConfig.maxFiles
- kernelConfig.maxClist
- kernelConfig.maxMemPerProc
- kernelConfig.openMaxPerProc
- kernelConfig.posixJobCtrl
- kernelConfig.posixVersion
- bootconf
- streams
- userTable.userUID、GID
- userTable.userShell
- processTable.processFlags
- processTable.processUID、GID
- processTable.processParentPID
- processTable.processInBlks、outBlks
- processTable.processMsgsSent、Recv
- processTable.processSysCalls
- processTable.processMinorPgFaults
- processTable.processNumSwaps
- processTable.processVolCtx、InvolCtx

- kernelperf.diskWaitNum
- kernelperf.pageWaitNum
- kernelperf.swapActive
- kernelperf.sleepActive
- kernelperf.numTraps
- kernelperf.numPageSwapIns
- kernelperf.numPageSwapOuts
- kernelperf.numSwapIns
- kernelperf.numSwapOuts
- kernelperf.numPageReclaims
- kernelperf.pageScans
- ipc
- buffers.mbuf
- buffers.strbuf
- ioBufferCache.numBufSleeps
- ioBufferCache.numAgeAllocs
- ioBufferCache.numLRUAllocs
- ioBufferCache.numBufHdrs
- ioBufferCache.numAllocBuff
- dnlc
- ntRegistry.ntRegistryCurrentSize
- rpc
- nfs
- cpuStatsTable.cpuStatsWait
- cpuStatsTable.cpuStatsWaitPercent

現在のリリースでは、システム管理 MIB オブジェクトの kernelperf 以外のパフォーマンスは実装されていません。

Solaris

このセクションでは、Solaris オペレーティング システムではサポートされていない MIB オブジェクトをリスト表示します。

MIB-II オブジェクト

Solaris では以下の MIB-II オブジェクトがサポートされていません。

- ifTable.ifEntry.ifLastChange
- ifTable.ifEntry.ifInNUCastPkts
- ifTable.ifEntry.ifDiscards
- ifTable.ifEntry.ifInUnknownProtos
- ifTable.ifEntry.ifOutNUCastPkts
- ifTable.ifEntry.ifOutQLen
- ifTable.ifEntry.ifSpecific

適切なパッチがインストールされている場合、エージェントは Solaris で以下の MIB-II オブジェクトをサポートします。

- ifTable.ifEntry.ifSpeed
- ifTable.ifEntry.ifInOctets
- ifTable.ifEntry.ifOutOctets

現在のリリースでは、egp MIB-II オブジェクトは実装されていません。

Host Resources MIB オブジェクト

Solaris では以下の Host Resources MIB オブジェクトがサポートされていません。

- hrStorageAllocationFailures
- hrSWRunID
- hrSWInstalledID

現在のリリースでは以下の Host Resources MIB オブジェクトは実装されていません。

- hrSystemInitialLoadParameters
- hrPrinterTable
- hrFSLastFullBackupDate
- hrFSLastPartialBackupDate
- hrFSBootable

以下の Host Resources MIB オブジェクトにはオブジェクト コメントがあります。

hrDeviceID

ハードウェアの製造元が ID を割り当てていません。

hrDeviceErrors

デバイス自体がサポートしている場合はサポートされます。

hrProcessorFrwID

製造元が ID を割り当てていません。

hrSWRunPath

プロセスがこれらの値を変更する場合があります。または、プロセスがこの値を提供しない場合があります。

hrSWRunParameters

プロセスがこれらの値を変更する場合があります。または、プロセスがこの値を提供しない場合があります。

IPv6 MIB オブジェクト

Solaris では以下の IPv6 MIB オブジェクト（RFC 4293）がサポートされていません。

- ipIfStatsTable
- ipAddressPrefixTable

システム管理 MIB オブジェクト

Solaris では以下のシステム管理 MIB オブジェクトがサポートされていません。

- streams.numMuxLinks
- streams.dblockUse
- streams.dblockMax
- streams.dblockFail
- performance.cpuSxbrk
- kernelperf.diskWaitNum
- mbufAllocTable
- strbufAllocTable
- ioBufferCache.numAgeAlloc
- ioBufferCache.numLRUAlloc
- ioBufferCache.minNumBufHdrs
- ioBufferCache.numAllocBuf
- nt
- nfs.clientNFSclsleep

現在のリリースでは、以下のシステム管理 MIB オブジェクトは実装されていません。

- kernelperf.pageWaitNum
- kernelperf.swapActive
- kernelperf.sleepActive

Solaris 10 のシステム管理 MIB オブジェクト

Solaris 10 では以下のシステム管理 MIB オブジェクトがサポートされていません。

注: すべての Solaris オペレーティング システムでサポートされていないオブジェクトは Solaris 10 でもサポートされていません。

- queID
- queKey
- queMode
- queOwner
- queGroup
- queNBytes
- queNMesg
- queDel
- shmemID
- shmemKey
- shmemMod
- shmemOwner
- shmemGroup
- shmemSegSz
- shmemNLcks
- shmemDel
- semID
- semKey
- semMode
- semOwner
- semGroup
- semNsems
- semDel

HP-UX

このセクションでは、HP-UX オペレーティング システムではサポートされていない MIB オブジェクトをリスト表示します。

注: SystemEDGE は、HP-UX のループバック インターフェースをレポートしない場合があります(35025)。

MIB-II オブジェクト

HP-UX では以下の MIB-II オブジェクトがサポートされていません。

- ifTable.ifEntry.ifSpecific
- ip.ipRouteEntry.ipRouteMetric5

現在のリリースでは以下の MIB-II オブジェクトは実装されていません。

- ip.ipRouteEntry.ipRouteInfo
- egp

Host Resources MIB オブジェクト

HP-UX では以下の Host Resources MIB オブジェクトがサポートされていません。

- hrStorageAllocationFailures
- hrPartitionTable
- hrSWRunID
- hrSWInstalledID

HP-UX の現在のリリースでは、以下の Host Resources MIB オブジェクトは実装されていません。

- hrSystemInitialLoadParameters
- hrFSLastFullBackupDate
- hrFSLastPartialBackupDate
- hrFSBootable
- hrPrinterTable

以下の Host Resources MIB オブジェクトには、HP-UX 用のオブジェクト コメントがあります。

hrDeviceID

ハードウェアの製造元が ID を割り当てていません。

hrDeviceErrors

デバイス自体がサポートしている場合はサポートされます。

hrProcessorFrwID

製造元が ID を割り当てていません。

hrSWRunPath

プロセスがこれらの値を変更する場合があります。

hrSWRunParameters

プロセスがこれらの値を変更する場合があります。または、これらの値が提供されない場合があります。

IPv6 MIB オブジェクト

HP-UX では以下の IPv6 MIB オブジェクト（RFC 4293）がサポートされていません。

- ipSystemStatsTable
- icmpStatsTable

システム管理 MIB オブジェクト

HP-UX では以下のシステム管理 MIB オブジェクトがサポートされていません。

- kernelconfig.romVersion
- kernelconfig.maxInode
- kernelconfig.maxFiles

- kernelconfig.maxClist
- kernelconfig.maxMemPerProc
- streams
- performance.cpuSxbrk
- mbuf (group, table)
- bootconf (group)
- strbufAllocTable
- ioBufferCache
- nt
- rpc.clientRPC
- nfs.clientNFSclseeps
- diskStatsTable.diskStatsReads
- diskStatsTable.diskStatsWrites

AIX

このセクションでは、AIX オペレーティング システムではサポートされていない MIB オブジェクトをリスト表示します。

MIB-II オブジェクト

AIX では以下の MIB-II オブジェクトがサポートされていません。

- ifTable.ifEntry.ifSpecific
- ip.ipInUnknownProtos
- ip.ipInDiscards
- ip.ipFragOKs
- ip.ipFragFails
- ip.ipFragCreates
- tcp.tcpOutRsts
- udp.udpInDatagrams
- udp.udpNoPorts
- udp.udpOutDatagrams

現在のリリースでは、MIB-II オブジェクト egp は実装されていません。

AIX 5.2 および 5.3 の制限事項のため、ifTable.ifEntry.ifSpeed MIB-II オブジェクトは推定値です。

Host Resources MIB オブジェクト

AIX では以下の Host Resources MIB オブジェクトがサポートされていません。

- hrStorageAllocationFailures
- hrPartitionTable
- hrSWRunID

現在のリリースでは以下の Host Resources MIB オブジェクトは実装されていません。

- hrPrinterTable
- hrSystemInitialLoadParameters
- hrFSLastFullBackupDate
- hrFSLastPartialBackupDate
- hrFSBootable

- hrSWRunPath
- hrSWRunParameters

以下の Host Resources MIB オブジェクトにはオブジェクト コメントがあります。

hrDeviceID

ハードウェアの製造元が ID を割り当てていません。

hrDeviceErrors

デバイス自体がサポートしている場合はサポートされます。

hrProcessorFrwID

製造元が ID を割り当てていません。

IPv6 MIB オブジェクト

AIX では以下の IPv6 MIB オブジェクト(RFC 4293)がサポートされていません。

- ipIfStatsTable
- ipAddressPrefixTable
- ipNetToPhysicalTable

システム管理 MIB

AIX では以下のシステム管理 MIB オブジェクトがサポートされていません。

- devTable.devFstr
- kernelConfig.maxFiles
- kernelConfig.maxMemPerProc
- processTable.processSysCalls
- whoTable.whoEntry.whoPid
- performance.diskWaitNum
- performance.pageWaitNum
- performance.sleepActive
- performance.numSwapIns
- performance.numSwapOuts
- msgqueTable
- shmemTable
- semTable
- strbufs
- ioBufferCache
- nt
- distribsys
- diskStatsTable.diskStatsQueueLength

現在のリリースでは、以下のシステム管理 MIB オブジェクトは実装されていません。

- bootconf
- streams

Linux

このセクションでは、Linux オペレーティング システムではサポートされていない MIB オブジェクトをリスト表示します。

MIB-II オブジェクト

Linux では以下の MIB-II オブジェクトがサポートされていません。

- ifTable.ifEntry.ifInOctets
- ifTable.ifEntry.ifInNUcastPkts
- ifTable.ifEntry.ifOutOctets
- ifTable.ifEntry.ifOutNUcastPkts
- ifTable.ifEntry.ifOutQLen
- ifTable.ifEntry.ifSpecific
- ip.ipRouteEntry.ipRouteAge
- ip.ipRouteEntry.ipRouteInfo
- ip.ipRoutingDiscards
- tcp.inErrs
- tcp.OutRsts

以下の MIB-II オブジェクトにはオブジェクト コメントがあります。

ifTable.ifEntry.ifType

Linux の制限事項のために推定されます。

ifTable.ifEntry.ifSpeed

Linux の制限事項のために推定されます。

Host Resources MIB オブジェクト

Linux では以下の Host Resources MIB オブジェクトがサポートされていません。

- hrSystemInitialLoadParameters
- hrStorageAllocationFailures
- hrPartitionTable
- hrFSBootable
- hrSWRunID
- hrSWInstalledTable

現在のリリースでは以下の Host Resources MIB オブジェクトは実装されていません。

- hrSystemInitialLoadDevice
- hrPrinterTable
- hrFSLastFullBackupDate
- hrFSLastPartialBackupDate

以下の Host Resources MIB オブジェクトにはオブジェクト コメントがあります。

hrDeviceID

ハードウェアの製造元が ID を割り当てていません。

hrDeviceErrors

デバイス自体がサポートしている場合はサポートされます。

hrProcessorFrwID

製造元が ID を割り当てていません。

IPv6 MIB オブジェクト

Linux では以下の IPv6 MIB オブジェクト（RFC 4293）がサポートされていません。

- ipIfStatsTable
- ipNetToPhysicalTable

システム管理 MIB オブジェクト

Linux では以下のシステム管理 MIB オブジェクトがサポートされていません。

- kernelConfig.maxClist
- kernelConfig.maxMemPerProc
- bootconf
- streams
- processTable.processNumThreads
- processTable.processInBlks
- processTable.processOutBlks
- processTable.processMsgsSent
- processTable.processMsgsRecv
- processTable.processSysCalls
- processTable.processMinorPgFlts
- processTable.processNumSwaps
- processTable.processVolCtx
- processTable.processInvolCtx
- kernelperf.diskWaitNum
- kernelperf.pageWaitNum
- kernelperf.swapActive
- kernelperf.sleepActive
- kernelperf.numTraps
- kernelperf.numSyscalls
- kernelperf.numSwapIns
- kernelperf.numSwapOuts
- kernelperf.numPageReclaims
- kernelperf.numPageFaults
- kernelperf.pageScans

- ipc
- buffers
- dnlc
- diskStatsEntry.diskStatsQueueLength
- diskStatsEntry.diskStatsServiceTime
- diskStatsEntry.diskStatsUtilization
- cpuStatsTable.cpuStatsWait
- cpuStatsTable.cpuStatsWaitPercent
- cpuStats.cpuTotalWait
- cpuStats.cpuTotalWaitPercent
- nt

現在のリリースでは、システム管理 MIB オブジェクト kernelConfig.clockHZ は実装されていません。

以下のシステム管理 MIB オブジェクトにはオブジェクト コメントがあります。

devTable.devTfiles

基盤となるカーネルまたはモジュールがサポートする場合にサポートされます。

devTable.devFfiles

基盤となるカーネルまたはモジュールがサポートする場合にサポートされます。

devTable.devInodeCapacity

基盤となるカーネルまたはモジュールがサポートする場合にサポートされます。

第 5 章: 既知の問題

この章では、既知の問題に関する情報について説明します。エージェントの展開および設定などの CA Virtual Assurance の統合機能に関連する既知の問題については、「CA Virtual Assurance リリース ノート」を参照してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

UNIX/Linux システムでの SystemEDGE の対話式インストール

症状:

UNIX/Linux システム上で SystemEDGE の対話式インストールを実行すると、インストールに失敗する。

解決方法:

一部の UNIX/Linux システムで、UTF-8 ベースのロケールを設定していると、SystemEDGE の対話式インストールが失敗し、「Abort Installation」メッセージが表示される場合があります。この問題は一部の HP-UX システムで確認されています。C またはその他の ISO8859-1 ベースのロケールでインストールを実行することで、この問題を回避できます。ロケールを UTF-8 ベースから問題を回避できるロケールに切り替えるには、ターミナルから「unset LANG」コマンドを実行します。その後、インストールを再実行してください。

SystemEDGE の対話式インストール、Advanced Encryption、サービス レスポンス モニタリング（UNIX/Linux）

症状:

UNIX/Linux で、対話式のエージェント インストーラが完全にローカライズされていません。AIX 以外の Unix/Linux プラットフォームの場合:

- 対話式インストールを実行中に、インストーラに「Software Management Installer」と表示されます。
- それらのインストール中に、関連するコンポーネントからのメッセージが英語で表示されます。これには、コンポーネントが停止/開始されたことを示すメッセージも含まれます。

AIX の場合:

- インストーラはローカライズされていません。

解決方法:

これは表示のみの問題です。コンポーネントは正しく機能します。

ifSpeed メトリックの制限

症状:

ifSpeed メトリックが「1」として報告される。

解決方法:

ifSpeed メトリックを収集できないか、システムのカーネルから利用できない場合、SystemEDGE 内の既存の制限により、メトリックが「1」として報告されます。

Linux ポート バインディング

症状:

Linux システム上の SystemEDGE を、同じポートを使用してコマンド ラインから手動で複数回起動すると、同じポートに複数回バインドされます。

解決方法:

この制限を回避するには、常に Linux 起動スクリプト（$CASYSEDGE/bin/sysedgectl start）を使用して、Linux 上の SystemEDGE を起動するようにしてください。

第 6 章: 発行済みの修正プログラム

本製品に関する発行済みのバグ修正プログラムのすべてのリストは、CA サポートオンラインの「Published Solutions」にあります。

第 7 章: 各国語のサポート

SystemEDGE は国際化製品です。*国際化*製品とは、認定されたローカル言語版オペレーティング システムおよびサード パーティ製品上で正常に動作し、データの入出力においてローカル言語をサポートする英語版製品です。また、国際化製品は、日付、時刻、通貨、数値に関してローカル言語の書式をサポートします。

*翻訳済み*製品（*ローカライズ済み*製品とも言います）とは、製品のユーザ インターフェース、オンライン ヘルプ、その他のマニュアルのローカル言語サポートに加えて、日付、時刻、通貨、数値に関してローカル言語でのデフォルトの書式設定をサポートする国際化製品です。

英語（米国）以外の言語環境のサポート

SystemEDGE 5.6.0 および CA Virtual Assurance 12.6 AIM はサポート対象のオペレーティング システムの英語、フランス語、ドイツ語、および日本語版でサポートされています。詳細については、このガイドの「国際化（i18n） (P. 48)」、および CA Virtual Assurance または CA Server Automation の「リリース ノート」を参照してください。

国際化(i18n)

CA SystemEDGE、CA Virtual Assurance AIM および選択されたコマンドライン ユーティリティは、UTF-8 文字エンコーディングに基づいた国際化をサポートします。

SystemEDGE コントロール パネル アプレット

SystemEDGE コントロール パネル アプレットは、インストール中に指定されたロケールにかかわらずシステム ロケールを使用します。システム ロケール用の特定の言語リソースが利用できない場合、SystemEDGE コントロール パネル アプレットの UI は英語で示されます。

SystemEDGE 設定ファイル

言語固有の文字を追加するために sysedge.cf 設定ファイルを変更するときは、使用するテキスト エディタが UTF-8 の保存形式をサポートしていることを確認します。ファイルの保存時に、テキスト エディタによって UTF-8 バイト オーダー マークが挿入されると、SystemEDGE は、設定ファイルを読み取るときにバイト オーダー マークを無視します。

UTF-8 エンコード文字を使用した正規表現

SystemEDGE モニタで使用される正規表現に UTF-8 エンコード文字を使用する場合は PCRE 正規表現ライブラリを有効にします。PCRE の詳細については、「SystemEDGE ユーザ ガイド」を参照してください。

SystemEDGE CLI コマンド

以下のコマンドは、ローカライズされた出力およびコンソール ヘルプ情報を提供します。

- edgemon
- edgewatch
- emphistory
- se_enc

オプションの -L スイッチを使用すると、ユーティリティは、コンソールの現在のロケールと、利用可能な場合は言語カタログを検出します。言語カタログが見つからない場合、ユーティリティはデフォルト言語である英語に戻ります。

コンソール ディスプレイのカスタマイズ

言語固有の文字を含むコンソール データを表示する場合は、CLI コマンドに関する以下の前提条件を確認してください。

- 使用しているオペレーティング システムで、適切な言語サポートが利用可能であることを確認します。
- コマンドを実行する Windows コマンド プロンプトで、Lucida Console フォントを有効にします。
- コマンドの実行に使用する UNIX または Linux コンソール内で、UTF-8 文字エンコーディングを有効にします。端末コンソール内で以下のコマンドを入力して、現在の言語設定を表示します。

  ```
  echo $LANG
  ```

  UTF-8 が無効な場合、コンソール ウィンドウで、たとえば以下のコマンドを入力します（適切な文字エンコーディングを使用してください：en_US.UTF-8、ja_JP.UTF-8、fr_BE.UTF-8、de_DE.UTF-8 など）。

  ```
  LANG=en_US.UTF-8; export LANG
  ```

制限事項

SystemEDGE でホスト名として使用できる文字は、「a ～ z」、「A ～ Z」、「0 ～ 9」、および「-」のみです。ホスト名は、先頭文字をハイフン（「-」）にすることや、すべて数値にすることはできません。Windows システムの NetBIOS 名は、その DNS ホスト名と一致している必要があります。

SystemEDGE は以下の項目において ASCII 文字のみをサポートしています。

- ポリシー名を除くすべての SystemEDGE パラメータ
- SystemEDGE 権限分離ユーザ（UNIX および Linux のみ）
- SNMP の読み取り、読み取り/書き込み、およびトラップのコミュニティ文字列
- %TEMP% 環境変数
- すべての SystemEDGE インストール ターゲット パス

Exchange Server および Active Directory 用 AIM

このリリースの Exchange Server および Active Directory 用 AIM では、国際化はサポートされていません。

第 8 章: マニュアル

このエージェントには以下の PDF 版マニュアルが用意されています。

- 「SystemEDGE リリース ノート」(SE_Release_ENU.pdf)
- 「SystemEDGE ユーザ ガイド」(SE_User_ENU.pdf)

PDF ファイルを参照するには、Adobe の Web サイトから Adobe Reader をダウンロードしてインストールする必要があります(コンピュータに Adobe Reader がインストールされていない場合)。

また、CA Virtual Assurance ドキュメント セットにもこれらのガイドが含まれます。

最新のマニュアルは http://www.ca.com/jp/support/ から入手可能です。